獣医学教育評価

自己点検・評価ワークシート

**１　使命・目的**

|  |
| --- |
| ①　獣医学の使命・目的  獣医学、すなわち動物医学は、生物学に基礎をおく応用科学であり、人類と動物の福祉に貢献することを使命とする。また、獣医学教育（学士課程）によって輩出される人材は、獣医師として飼育動物に関する診療及び保健衛生の指導その他の獣医事をつかさどることにより、動物の保健衛生、公衆衛生及び畜産業の発達に貢献する使命がある。獣医師には、ライフサイエンス等の動物科学分野を広く探求し社会に貢献する責務もある（注１）。  獣医学教育の目的は、上記の獣医学の使命を果たすため、獣医学に関する知識及び技能を授け、合わせてその実践能力を展開させ、獣医学に求められる社会的使命を遂行し、生涯にわたり自己の資質の向上に努めることのできる人材を養成することである。その教育を行うに当たっては、特に以下の点に留意する。  １）基礎分野と病態分野の教育においては、生命科学分野（ライフサイエンス分野）の全般を俯瞰し、応用及び臨床分野へと繋げていく能力の開発と養成を図ること。  ２）応用分野の教育においては、広く社会の要請（ニーズ）に応える応用技術を開発し、社会貢献（福祉）の観点からその発展を推進する能力の開発を図ること。  ３）臨床分野の教育においては、生命原理に基づく獣医療の実践教育のみならず動物福祉を目的とした社会科学的教育にも重点をおくこと。  ４）常に課題を探求し、自ら学ぶ姿勢の涵養に努めること。  ５）生命観・倫理観の涵養に努めること。  ６）人類を取り巻く環境の意義の認識に努めること。  ７）国際感覚を備えた社会的教養人としての資質の開発に努めること。  ②　獣医学教育（学士課程）の範囲  獣医学は、基礎となる学理の展開を図る基礎分野、動物の疾患の成り立ちを究める病態分野、獣医学の社会への展開を図る応用分野及び獣医医療を目的とした学理の展開を図る臨床分野から構成される。また、基礎分野及び病態分野では演繹論的要素、応用分野では技術論的要素、臨床分野では経験論的要素を重視しつつ、四者が一体となった総合学として展開される。  ③　獣医学教育（学士課程）の目的の設定、周知・公表  獣医学教育（学士課程）の目的は、当該獣医学教育（学士課程）を設置する大学の理念・目的に沿って定めなければならない。  また、獣医学教育の教育研究を担う組織（以下、「獣医学教育組織」という。）は、獣医学教育（学士課程）の目的を学生及び教職員に周知するとともに、ウェブサイト、大学案内等を通じて、広く社会に公表しなければならない。  （注１）獣医師法第１条（獣医師の任務）：第１条　獣医師は、飼育動物に関する診療及び保健衛生の指導その他の獣医事をつかさどることによって、動物に関する保健衛生の向上及び畜産業の発達を図り、あわせて公衆衛生の向上に寄与するものとする。 |

＜獣医学教育（学士課程）の目的の設定、周知・公表＞

【評価の視点1-1】当該獣医学教育（学士課程）を設置する大学の理念・目的に沿って、獣医学教育（学士課程）の目的を定めていること。

●基本情報：獣医学教育（学士課程）の目的を下欄に記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価1-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 獣医学の使命・目的を、当該獣医学教育（学士課程）を設置する大学の理念・目的に沿って定めている。 | ３ |
|  | 獣医学の使命・目的を、当該獣医学教育（学士課程）を設置する大学の理念・目的に沿って定めているが十分ではない。 | ２ |
|  | 獣医学教育（学士課程）の目的を定めていない。 | １ |

【評価の視点1-2】獣医学教育（学士課程）の目的を学生、教職員に周知していること。

●基本情報：獣医学教育（学士課程）の目的に関して学生、教職員に周知を図っている方法を下欄に記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 学生及び教職員に対して十分周知を図っている。 | ３ |
|  | 学生及び教職員に対して周知が十分ではない。 | ２ |
|  | 学生及び教職員に対して周知を図っていない。 | １ |

【評価の視点1-3】獣医学教育（学士課程）の目的をウェブサイト、大学案内等を通じて、広く社会に公表していること。

●基本情報：獣医学教育（学士課程）の目的の公表方法を下欄に記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | ウェブサイト及び大学案内等に掲載している。 | ３ |
|  | ウェブサイトまたは大学案内等に掲載している。 | ２ |
|  | 公表していない。 | １ |

|  |
| --- |
| ※ 評価の視点1-1～3に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください（『獣医学教育評価ハンドブック』（14頁）の例のとおり、「評価の視点」ごとに自己点検・評価の結果の概要をまとめたうえで、長所、問題点を記述してください）。 |

**２　教育課程・学習成果**

**（１）教育課程**

|  |
| --- |
| ①　学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の設定、公表  各獣医学教育組織は、自ら掲げる獣医学教育（学士課程）の目的に基づき、修得すべき知識・技能・態度など、獣医学（学士）の学位にふさわしい学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を定め、公表しなければならない。  ②　教育課程の編成  各獣医学教育組織は、獣医学の教育課程の編成にあたって、教育課程の編成・実施方針に基づき、獣医学を構成する各分野の基本的な知織を学生が偏りなく修得できるものとしなければならない。  獣医学の専門授業科目は、獣医学を構成する各分野について、最低限必要な知識・技術を修得させる基本授業科目（コア科目）と、大学の特徴を活かし、各大学が独自に設定する専修授業科目（アドバンス科目）からなる（注２）。アドバンス科目の設定においては、当該獣医学課程が掲げる目的に基づいた特色あるものであることが望まれる（注３）。  各分野別の授業科目に関しては、別添１の内容に留意して実施することが望まれる。  　獣医学教育（学士課程）では、社会で活躍しうる実践的能力を涵養するために、総合参加型臨床実習を課さなければならない。本実習では、獣医師免許を所持しない獣医学生が診療行為に参加することになるため、大学は共用試験のような客観的な手法で学生の学力を事前に評価しておく必要がある（注４）。また、学生自らが課題を探求し、課題を解決する態度や、その過程と結果を社会に対し論理的に説明する能力等、獣医師及び獣医科学者としての資質を涵養するために、特別研究（卒業研究）を課すことが望ましい。この特別研究は、学生が特定の課題について、指導教員の指導のもと、学内外の施設において研究・実習・演習、特殊な技能の修得・応用、文献調査などを行い、その成果をまとめて論文又は報告書を作成するものである。特別研究は専修教育の目的を遂行する上で重要な役割を果たすものであり、その重要性に鑑みて、少人数の教育体制を構築するとともに、適切な単位を設定することが望ましい。さらに、獣医師の社会的責務を体得させるとともに、実地教育の一層の充実を期するために、各大学の実情に応じて適当と認められる範囲の実地研修（インターンシップ）を課すことが望ましい。  ③　教育方法  獣医学教育（学士課程）は、講義のほか実験、実習、演習あるいは研究等を含む授業科目を体系的に配置して、必修又は選択履修させるものとする。特に実習についてはその役割を重視し、全員体験型の実習を実施することが望ましい。そのための十分な指導体制と時間を確保するとともに、実習の効果的な実施の時期を定めることが必要である。このため、学生が授業科目を体系的に履修できるような配慮（カリキュラムツリー又はカリキュラムマップなどの整備）も重要である。  　獣医学教育組織は、学生が、授業科目ごとの学習目的や授業内容等を把握できるシラバスを作成し、教員も全科目の教授内容等を共有できるようにすることが必要である。  　獣医学教育（学士課程）では、科目ごとにあらかじめ示された適切な成績評価基準・方法で成績評価を行う必要がある。また、成績評価に関しては、学生からの異議申立制度を整備する必要がある。  　卒業要件としては、本基準に定める要件を備えた獣医学教育組織に６年以上在学し、182単位以上を取得することが必要であり、獣医学教育組織が定めた学位授与方針及び学位授与の手続に従い、学位授与を適切に行わなければならない（注５）。  ④　共同教育課程等に伴う教育方法（注６）  　獣医学教育組織は、共同教育課程等の制度を利用して２大学以上で獣医学教育（学士課程）を行うことができる。この場合、遠隔講義、教員の相互派遣、学生の移動などの手法を有機的に組み合わせて行う必要がある。このため、教員は、学生の要望、意見を適切に聴取し、不断に教育手法や内容について検証、議論するファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）を実施し、その改善に努めることが必要である。  （注２）平成23年３月、文部科学省に設置されていた「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の意見を踏まえ、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムが策定された。このモデル・コア・カリキュラムでは、同教育の構成要素を、導入教育・基礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学、臨床獣医学の四分野とし、別表に示すように、講義科目として51科目､実習科目として19科目を挙げている。  （注３）獣医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成23年度版）はすべての獣医学生が６年間の履修年限のなかで習得する2/3程度の内容（コア科目）を示したものであり、残りの1/3（アドバンス科目）は、設置大学が自ら掲げる獣医学教育（学士課程）の目的や社会的要求に応じて、履修時間の配分を変える、あるいは別立てのカリキュラムで実施することとしている。  （注４）共用試験は、総合参加型臨床実習に参加するための習熟度を審査するための全国統一試験である。主に知識を評価する客観試験Computer-Based Testing（ＣＢＴ）と、実技を通して主に技能・態度を評価する客観的臨床能力試験Objective Structured Clinical Examination（ＯＳＣＥ）の２種類の試験より成る。  （注５）単位数の計算にあたっては、講義及び演習については１単位15～30時間の範囲、実験、実習については１単位30～45時間の範囲で大学が定めることとなっている。  （注６）複数の獣医学教育組織が相互に共同で教育プログラムを編成する仕組みで、平成20年に導入された制度（大学設置基準の一部改正）。構成大学のうちの他の大学における授業科目の履修を自大学の授業科目の履修とみなすことができる。構成大学において最低限取得すべき単位数は31単位である。 |

＜学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の設定、公表＞

【評価の視点2-1】獣医学教育（学士課程）の目的に基づき、修得すべき知識・技能・態度など獣医学（学士）の学位にふさわしい学位授与方針を定めていること。

●基本情報：学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を下欄に記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価2-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 修得すべき知識・技能・態度など獣医学（学士）の学位にふさわしい学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定めている。 | ３ |
|  | 修得すべき知識・技能・態度など獣医学（学士）の学位にふさわしい学位授与方針を定めていない。 | ２ |
|  | 学位授与方針を定めていない。 | １ |

【評価の視点2-2】学位授与方針を公表していること。

●基本情報：学位授与方針の公表方法を下欄に記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | ウェブサイト及び大学案内等に掲載している。 | ３ |
|  | ウェブサイトまたは大学案内等に掲載している。 | ２ |
|  | 公表していない。 | １ |

【評価の視点2-3】学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定めていること。

●基本情報：教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を下欄に記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を定めている。 | ３ |
|  | 教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示していない。 | ２ |
|  | 教育課程の編成・実施方針を定めていない。 | １ |

【評価の視点2-4】教育課程の編成・実施方針を公表していること。

●基本情報：教育課程の編成・実施方針の公表方法を下欄に記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価2-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | ウェブサイト及び大学案内等に掲載している。 | ３ |
|  | ウェブサイトまたは大学案内等に掲載している。 | ２ |
|  | 公表していない。 | １ |

＜教育課程の編成＞

【評価の視点2-5】教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程を体系的に編成していること。

【自己評価2-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程を体系的に編成している。 | ３ |
|  | 教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。 | ２ |
|  | 教育課程の編成・実施方針に基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。 | １ |

【評価の視点2-6】モデル・コア・カリキュラムの内容を網羅した講義内容であること。

●基本情報：貴獣医学教育組織のモデル・コア・カリキュラムに対応した講義科目に関する情報を記入してください。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ＜コア科目（講義科目）＞ | | |  |  |  | |  | |  |  | |  |
| 分野 | 科目 | モデル・コア  ・カリキュラム | 相当科目名 | 担当コマ数 | | 担当教員 | | | | |
| 氏名 | | 職名 ＊ | | |
| 導入  基礎 | 1-1 | 獣医学概論 | 獣医学概論 |  | | 獣医一郎 | | 専任 | | |
| 1-2 | 獣医倫理・動物福祉学 | 獣医倫理学 |  | | 獣医一郎 | | 専任 | | |
| 動物福祉学 |  | | 獣医二郎 | | 兼担 | | |
| 1-3 | 獣医事法規 | 獣医事法規Ⅰ |  | | 獣医三郎 | |  | | |
| 獣医事法規Ⅱ |  | | 獣医四郎 | |  | | |
| 1-4 | 解剖学 | 解剖・組織学Ⅰ |  | | 獣医五郎 | |  | | |
| 解剖・組織学Ⅱ |  | | 獣医六郎 | |  | | |
| 1-5 | 組織学 | 解剖・組織学Ⅰ |  | | 獣医五郎 | |  | | |
| 解剖・組織学Ⅱ |  | | 獣医六郎 | |  | | |
| 1-6 | 発生学 |  |  | |  | |  | | |
| 1-7 | 生理学 |  |  | |  | |  | | |
| 1-8 | 生化学 |  |  | |  | |  | | |
| 1-9 | 薬理学 |  |  | |  | |  | | |
| 1-10 | 動物遺伝育種学 |  |  | |  | |  | | |
| 1-11 | 動物行動学 |  |  | |  | |  | | |
| 1-12 | 実験動物学 |  |  | |  | |  | | |
| 1-13 | 放射線生物学 |  |  | |  | |  | | |
| 病態  病態 | 2-1 | 病理学 |  |  | |  | |  | | |
| 2-2 | 免疫学 |  |  | |  | |  | | |
| 2-3 | 微生物学 |  |  | |  | |  | | |
| 2-4 | 家禽疾病学 |  |  | |  | |  | | |
| 2-5 | 魚病学 |  |  | |  | |  | | |
| 2-6 | 動物感染症学 |  |  | |  | |  | | |
| 2-7 | 寄生虫病学 |  |  | |  | |  | | |
| 応用 | 3-1 | 動物衛生学 |  |  | |  | |  | | |
| 3-2 | 公衆衛生学総論 |  |  | |  | |  | | |
| 3-3 | 食品衛生学 |  |  | |  | |  | | |
| 3-4 | 環境衛生学 |  |  | |  | |  | | |
| 3-5 | 毒性学 |  |  | |  | |  | | |
| 3-6 | 人獣共通感染症学 |  |  | |  | |  | | |
| 3-7 | 疫学 |  |  | |  | |  | | |
| 3-8 | 野生動物学 |  |  | |  | |  | | |
| 臨床  臨床 | 4-1 | 内科学総論 |  |  | |  | |  | | |
| 4-2 | 臨床病理学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-3 | 臨床薬理学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-4 | 呼吸循環器病学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-5 | 消化器病学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-6 | 泌尿生殖器病学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-7 | 内分泌代謝病学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-8 | 臨床栄養学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-9 | 神経病学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-10 | 血液免疫病学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-11 | 皮膚病学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-12 | 臨床行動学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-13 | 外科学総論 |  |  | |  | |  | | |
| 4-14 | 手術学総論 |  |  | |  | |  | | |
| 4-15 | 麻酔学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-16 | 軟部組織外科学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-17 | 運動器病学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-18 | 臨床腫瘍学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-19 | 眼科学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-20 | 画像診断学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-21 | 産業動物臨床学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-22 | 馬臨床学 |  |  | |  | |  | | |
| 4-23 | 臨床繁殖学 |  |  | |  | |  | | |

* 職名；専任、兼担、兼任、特任、臨床

【自己評価2-6-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | モデル・コア・カリキュラムの講義内容に全て対応している。 | ４ |
|  | モデル・コア・カリキュラムの講義内容におおむね対応している。 | ３ |
|  | モデル・コア・カリキュラムの講義内容に十分に対応していない。 | ２ |
|  | モデル・コア・カリキュラムの講義内容に対応していない。 | １ |

【自己評価2-6-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 全てのコア科目（講義）を専任教員が担当している。 | ４ |
|  | ９割以上のコア科目（講義）を専任教員が担当している。 | ３ |
|  | 専任教員が８割以上のコア科目（講義）を担当し、兼任教員の担当が１割未満である。 | ２ |
|  | 上記以外である。 | １ |

【評価の視点2-7】モデル・コア・カリキュラムの実習内容を実施していること。

●基本情報：貴獣医学教育組織のモデル・コア・カリキュラムに対応した実習科目に関する情報を記入してください。

＜コア科目（実習科目）＞

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 分野 | 科目 | モデル・コア  ・カリキュラム | 相当科目名 | 担当コマ数 | 担当教員 | |
| 氏名 | 職名＊ |
|  | 1-1 | 解剖学実習 | 解剖学実習 |  | 獣医五郎 | 専任 |
|  | 獣医六郎 | 兼担 |
|  | 1-2 | 組織学実習 | 組織学実習 |  | 獣医六郎 |  |
| 基礎 | 1-3 | 生理学実習 | 生理・生化学実習 |  | 獣医八郎 |  |
|  |  | 獣医九郎 |  |
|  | 1-4 | 生化学実習 | 生理・生化学実習 |  | 獣医八郎 |  |
|  |  | 獣医九郎 |  |
|  | 1-5 | 薬理学実習 |  |  |  |  |
|  | 1-6 | 実験動物学実習 |  |  |  |  |
| 病態 | 2-1 | 病理学実習 |  |  |  |  |
| 2-2 | 微生物学実習 |  |  |  |  |
| 2-3 | 寄生虫病学実習 |  |  |  |  |
| 応用 | 3-1 | 動物衛生学実習 |  |  |  |  |
| 3-2 | 公衆衛生学実習 |  |  |  |  |
| 3-3 | 食品衛生学実習 |  |  |  |  |
| 応用 | 3-4 | 毒性学実習 |  |  |  |  |
| 臨床 | 4-1 | 小動物内科学実習 |  |  |  |  |
| 4-2 | 小動物外科学実習 |  |  |  |  |
| 4-3 | 画像診断学実習 |  |  |  |  |
| 4-4 | 産業動物臨床実習 |  |  |  |  |
| 4-5 | 臨床繁殖学実習 |  |  |  |  |
| 4-6 | 総合参加型臨床実習 |  |  |  |  |

* 職名；専任、兼担、兼任、特任、臨床

【自己評価2-7】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | モデル・コア・カリキュラムの実習内容に全て対応している。 | ４ |
|  | モデル・コア・カリキュラムの実習内容におおむね対応している。 | ３ |
|  | モデル・コア・カリキュラムの実習内容に十分に対応していない。 | ２ |
|  | モデル・コア・カリキュラムの実習内容に対応していない。 | １ |

【評価の視点2-8】教員の監督指導の下で適正に実習を実施していること。

●基本情報：各実習担当の教員、ＴＡ（ティーチング・アシスタント）についての情報を記入してください。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 実習科目名 | 受講者数\*\* | 教員数 | ＴＡの大学院学年  及びＴＡ数 |
| 解剖学実習 | 30 | 2 | D2　１名  D3　２名 |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

\*\*受講生数：申請前年度の当該実習における受講生数

【自己評価2-8】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 適正な教員の監督指導の下で実習が実施されている。 | ４ |
|  | 適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。 | ３ |
|  | 適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。 | ２ |
|  | 適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。 | １ |

【評価の視点2-9】講義と関連した実習を行う場合、それらが連動して行われていること。

●基本情報：実習科目とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 実習名 | 開講時期 | 関連講義名 | 開講時期 |
| ○○学実習 | 2年後期 | ○○学 | 2年後期 |
| ○△学 | 2年後期 |
| ××学実習 | 3年前期 | ××学 | 3年後期 |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

【自己評価2-9】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。 | ４ |
|  | 講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。 | ３ |
|  | 講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。 | ２ |
|  | 講義と関連の実習が連動して実施されていない。 | １ |

【評価の視点2-10】獣医師の資質を涵養する教育を行っていること。

●基本情報：獣医師の資質を涵養するための科目・事例の内容を記入してください。

|  |
| --- |
| 獣医師倫理、獣医師法令、インターンシップなど（例） |

【自己評価2-10】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 獣医師の資質を涵養する教育を十分に行っている。 | ４ |
|  | 獣医師の資質を涵養する教育をおおむね行っている。 | ３ |
|  | 獣医師の資質を涵養する教育が十分でない。 | ２ |
|  | 獣医師の資質を涵養する教育がない。 | １ |

【評価の視点2-11】総合参加型臨床実習を実施する際は、学生に対し客観性のある適正な事前評価（共用試験）を実施していること。

●基本情報：総合参加型臨床実習の事前評価に関する情報を記入してください。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 総合参加型臨床実習 | | 共用試験 | |
| CBT | OSCE |
| 単位数 | 開講時期 | 受験時期 | 受験時期 |
| 4 | 5年前期 | 4年2月 | 4年2月 |

●CBTとOSCEについて特記すべき事項があれば記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価2-11】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 客観性がある適正な事前評価（共用試験）を実施している。 | ３ |
|  | 共用試験は実施していないが、それを補完する方法で客観的な事前評価を実施している。 | ２ |
|  | 事前評価を実施していない。 | １ |

●総合参加型臨床実習を学生が受講するにあたり、共用試験を補完する客観的な事前評価を実施している場合は、資料を添付し、事前評価法の詳細を記述してください。

|  |
| --- |
|  |

【評価の視点2-12】モデル・コア・カリキュラムの内容に従い実践的能力を涵養する総合参加型臨床実習を実施していること。

●基本情報：総合参加型臨床実習に関する情報を記入してください。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| モデル・コア・カリキュラムの項目 | 相当  単位数 | 受講  者数\* | 実習場所 | 教員数 | | | | |
| 専任教員 | 臨床教員 | 特任教員 | 兼担教員 | 兼任教員 |
| 基本的診療技能の修得 | 1 | 30 | 附属  動物病院 | 3 | 2 | 0 | 1 | 0 |
| 臨床例による診断技能の修得（小動物） | 2 | 附属  動物病院 | 5 | 2 | 0 | 1 | 0 |
| 臨床例による診療技能の修得（産業動物） | 1 | ○○NOSAI | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 |

\*受講生数：申請の前年度における受講生数

【自己評価2-12】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | モデル・コア・カリキュラムに従った総合参加型臨床実習を実施している。 | ４ |
|  | モデル・コア・カリキュラムに従った総合参加型臨床実習をおおむね実施している。 | ３ |
|  | モデル・コア・カリキュラムに従った総合参加型臨床実習を十分に実施していない。 | ２ |
|  | モデル・コア・カリキュラムに従った総合参加型臨床実習を実施していない。 | １ |

【評価の視点2-13】動物死体を活用した解剖学教育を適正に実施していること。

●基本情報：解剖学実習で使用した動物死体について、申請前年度までの５年間の情報を記入してください。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 開講年度 | 授業科目 | 開講時期 | 受講生数 | 小動物（数） | | | 産業動物（数） | | | | 鳥類（数） | |
| 犬 | 猫 | その他 | 牛 | 馬 | 豚 | その他 | 鶏 | その他 |
| 2015 | 解剖学実習１・２ | 1年後期 2年前期 | 30 | 5 | 3 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 15 | 0 |
| 2014 | 解剖学実習１・２ | 1年後期 2年前期 | 30 | 5 | 3 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 15 | 0 |
| 2013 | 解剖学実習 | 2年前期 2年後期 | 30 | 5 | 0 | 5 | 2 | 0 | 5 | 2 | 15 | 0 |
| 2012 | 解剖学実習 | 2年前期 2年後期 | 30 | 5 | 0 | 5 | 2 | 0 | 5 | 2 | 15 | 0 |
| 2011 | 解剖学実習 | 2年前期 2年後期 | 30 | 5 | 0 | 5 | 2 | 0 | 5 | 2 | 15 | 0 |
| 合計 | | | 150 | 46 | | | 33 | | | | 75 | |
| 受講生数合計／動物数合計 | | | | 3.3 | | | 4.5 | | | | 2.0 | |

●基本情報：上の表で「その他」にあげた動物についての情報を記入してください。

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 開講年度 | 授業科目 | 開講時期 | 受講生数 | 動物種 | 動物数 | 受講生数  ／動物数 |
| 2015 | 解剖学実習 | 2年前期 | 30 | ウサギ | 5 | 6.0 |
| 2015 | 解剖学実習 | 2年後期 | 30 | ヒツジ | 2 | 15.0 |
| 2014 | 解剖学実習 | 2年前期 | 30 | ウサギ | 5 | 6.0 |
| 2014 | 解剖学実習 | 2年後期 | 30 | ヒツジ | 2 | 15.0 |
| 2013 | 解剖学実習 | 2年前期 | 30 | ウサギ | 5 | 6.0 |
| 2013 | 解剖学実習 | 2年後期 | 30 | ヤギ | 2 | 15.0 |

【自己評価2-13】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 適正な割合（受講生数／動物数）\*で、各カテゴリー\*\*で少なくとも１つの動物種について実習を実施している。 | ４ |
|  | 適正な割合（受講生数／動物数）で、３つのうち２つのカテゴリーで少なくとも１つの動物種について実習を実施している、もしくは適正な割合（受講生数／動物数）ではないが、各カテゴリーで少なくとも１つの動物種について実習を実施している。 | ３ |
|  | 適正な割合（受講生数／動物数）ではないが、３つのうち２つのカテゴリーで少なくとも１つの動物種について実習を実施している。 | ２ |
|  | 上記以外である。 | １ |

\*適正な割合：小動物10名以下、産業動物20名以下、鳥類5名以下（受講生数／動物数）

\*\*カテゴリー：小動物、産業動物、鳥類

【評価の視点2-14】動物死体を活用した病理学教育を適正に実施していること。

●基本情報：病理学実習で使用した動物について、申請以前５年間の情報を記入してください。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 開講年度 | 授業科目 | 開講  時期 | 受講生数 | 小動物 | | | 産業動物 | | | | 鳥類 | |
| 犬 | 猫 | その他\* | 牛 | 馬 | 豚 | その他\* | 鶏 | その他\* |
| 2015 | 病理学実習１・２ | 3年前期 3年後期 | 30 | 6 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 2 | 10 | 0 |
| 2014 | 病理学実習１・２ | 3年前期 3年後期 | 30 | 5 | 0 | 0 | 2 | 0 | 8 | 0 | 6 | 0 |
| 2013 | 病理学実習 | 3年前期 3年後期 | 30 | 4 | 2 | 0 | 3 | 0 | 6 | 2 | 8 | 1 |
| 2012 | 病理学実習 | 3年前期 3年後期 | 30 | 5 | 0 | 0 | 2 | 1 | 5 | 0 | 6 | 0 |
| 2011 | 病理学実習 | 3年前期 3年後期 | 30 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 | 4 | 2 | 8 | 2 |
| 合計 | | | 150 | 25 | | | 42 | | | | 41 | |
| 受講生数合計／動物数合計 | | | | 6 | | | 3.6 | | | | 3.7 | |

●基本情報：上の表で「その他」にあげた動物種について記入してください。

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 開講年度 | 授業科目 | 開講時期 | 受講生数 | 動物種 | 動物数 | 受講生数  ／動物数 |
| 2015 | 病理学実習 | 3年前期 | 30 | ヒツジ | 2 | 15.0 |
| 2014 | 病理学実習 | 5年前期 | 30 | タヌキ | 1 | 30.0 |
| 2013 | 病理学実習 | 3年後期 | 30 | ヤギ | 2 | 15.0 |
| 2012 | 病理学実習 | 3年前期 | 30 | カラス | 1 | 30.0 |
| 2011 | 病理学実習 | 3年後期 | 30 | ヒツジ | 2 | 15.0 |
| 2011 | 病理学実習 | 3年前期 | 30 | ウズラ | 2 | 15.0 |

【自己評価2-14】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 適正な割合（受講生数／動物数）\*で、各カテゴリー\*\*で少なくとも１つの動物について実習を実施している。 | ４ |
|  | 適正な割合（受講生数／動物数）で、３つのうち２つのカテゴリーで少なくとも１つの動物種について実習を実施している、もしくは適正な割合（受講生数／動物数）ではないが、各カテゴリーで少なくとも１つの動物種について実習を実施している。 | ３ |
|  | 適正な割合（受講生数／動物数）ではないが、３つのうち２つのカテゴリーで少なくとも１つの動物種について実習を実施している。 | ２ |
|  | 上記以外である。 | １ |

\*適正な割合：小動物20名以下、産業動物30名以下、鳥類10名以下

\*\*カテゴリー：小動物、産業動物、鳥類

【評価の視点2-15】獣医学教育（学士課程）の目的や社会的要求に応じたアドバンス講義科目を開講しているか。

●基本情報：アドバンス科目に関する情報を記入してください。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 科目名 | 単位数 | 開講学年 | 教員名 | | |
| 専任 | 兼担・特任・臨床 | 兼任 （所属） |
| 新興・再興感染症 | ２ | 5 |  |  | 獣医一子 （○○大学） |
| 高度臨床治療学 | ２ | 6 |  | 獣医二子（臨床） |  |
| 動物と法 | ２ | 6 |  |  | 法律太郎  （○○法律事務所） |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

● アドバンス科目について特記するところがあれば、記入してください（任意）。

|  |
| --- |
|  |

【評価の視点2-16】特別研究（卒業研究）を実施していること。

●基本情報：卒業研究の実施状況を記入してください。

申請前年度の実施状況を記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 単位数 | 8 |
| 開始時期 | ４年後期 |
| 卒研発表会時期（月） | 6年（11月） |
| 評価\* | 段階評価 |
| 備考 | 中間発表会（5年後期） |

\*評価：合否評価、段階評価（優、良、可、不可）、その他

【自己評価2-16】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 特色のある特別研究（卒業研究）を実施している。 | ４ |
|  | 特別研究（卒業研究）を実施している。 | ３ |
|  | 特別研究（卒業研究）を実施しているが内容的に不十分である。 | ２ |
|  | 特別研究（卒業研究）を実施していない。 | １ |

【評価の視点2-17】適切な実地研修（インターンシップ）を実施しているか。

●基本情報：申請以前５年間の実地研修（インターンシップ）実施に関する情報を記入してください。また、実地研修の派遣先を記入してください。

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 単位化の有無 | 学年 | 科目名 | 単位数 | 実施時期 | 人数 |
| 2015 | 有 | 5年 | 獣医学インターンシップ演習 | 1 | 夏季休業中 | 35 |
| 2014 | 有 | 5年 | 獣医学インターンシップ演習 | 1 | 夏季休業中 | 33 |
| 2013 | 無 | 3〜6年 | — | — | 冬季休業中 | 15 |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |

|  |
| --- |
| 派遣先： |

【自己評価2-17】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 実地研修を必修科目として単位化し、実施している。 | ４ |
|  | 実地研修を選択科目として単位化し、実施している。 | ３ |
|  | 実地研修を科目として置いていないが、参加者を支援している。 | ２ |
|  | 実地研修を科目として置かず、かつ実地研修に関する支援も実施していない。 | １ |

＜教育方法＞

【評価の視点2-18】学生が授業科目を体系的に履修できるよう、履修指導を適切に行うとともに、カリキュラムツリー又はカリキュラムマップなどを整備していること。

●基本情報：学生が授業科目を体系的に履修できるよう、カリキュラムツリー又はカリキュラムマップなどを作成している場合、提出してください。

【自己評価2-18】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | カリキュラムツリー、カリキュラムマップなどを作成して履修指導を適切に行っている。 | ３ |
|  | カリキュラムツリー、カリキュラムマップなどは作成していないが履修指導は行っている。 | ２ |
|  | カリキュラムツリー、カリキュラムマップなどを作成せず、かつ履修指導も行っていない。 | １ |

【評価の視点2-19】シラバスにおいて、授業科目ごとに全体目標、授業概要、成績評価基準・方法等を明示していること。

●基本情報：シラバスを提出してください。

【自己評価2-19】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。 | ４ |
|  | シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。  または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。 | ３ |
|  | シラバスの記載が十分ではない。 | ２ |
|  | シラバスが作成されていない。 | １ |

【評価の視点2-20】シラバスの記載内容を改善する仕組みがあること。

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 該当する仕組み | 名称 |  |
| 委員構成等 |  |
| 改善の仕組みの実際 |  |

【自己評価2-20】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。 | ３ |
|  | シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。 | ２ |
|  | シラバス記載内容を改善する仕組みがない。 | １ |

【評価の視点2-21】厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を行っていること。

●基本情報：成績分布表を提出してください。

【自己評価2-21】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を行っている。 | ３ |
|  | 厳格かつ適正な成績評価及び単位認定をおおむね行っている。 | ２ |
|  | 成績評価及び単位認定が厳格かつ適正ではない。 | １ |

【評価の視点2-22】成績評価に対しての学生からの異議申立制度を整備していること。

●基本情報：異議申立制度について記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 異議申立制度の内容 |  |

【自己評価2-22】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 異議申立制度を整備している。 | ３ |
|  | 異議申立制度はあるが、十分な制度でない。 | ２ |
|  | 異議申立制度を整備していない。 | １ |

【評価の視点2-23】適切な進級要件を設定し、学生に周知していること。

●基本情報：進級要件を設定している場合、適切な進級要件を示す資料を提出してください。

●基本情報：進級要件について記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 進級要件 |  |

【自己評価2-23】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 適切な進級要件を設定し、学生に周知している。 | ３ |
|  | 適切な進級要件を設定しているが、学生に十分周知していない。 | ２ |
|  | 進級要件が適切でない。または学生に周知していない。 | １ |
|  | 進級要件を設定していない。 | 非該当 |

【評価の視点2-24】適切な卒業要件を設定し、学生に周知していること。

●基本情報：卒業要件を示す資料を提出してください。

●基本情報：卒業要件について記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 卒業要件 |  |

【自己評価2-24】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 適切な卒業要件を設定し、学生に周知している。 | ３ |
|  | 適切な卒業要件を設定しているが、学生に十分周知していない。 | ２ |
|  | 卒業要件が適切でない。または学生に周知していない。 | １ |

＜共同教育課程等に伴う教育方法＞（該当大学のみ）

【評価の視点2-25】コア科目に関して、Information and Communication Technology（ＩＣＴ）による遠隔教育の効果を検証し、改善を図っていること。

【評価の視点2-26】コア科目に関して、学生移動による効果を検証し、改善を図っていること。

【評価の視点2-27】コア科目に関して、教員移動による効果を検証し、改善を図っていること。

●基本情報：コア科目に対する遠隔教育の実施状況を記入してください。

ＩＣＴによる遠隔教育

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| モデル・コア・カリキュラム | | 相当科目名 | 単位数 | 開講時期 |
| 科目番号 | 科目名 |
| 1-7 | 生理学 | 獣医生理学Ⅱ | 2 | ２年前期 |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

学生移動による遠隔教育

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| モデル・コア・カリキュラム | | 相当科目名 | 単位数 | 開講時期 |
| 科目番号 | 科目名 |
| 4-4 | 産業動物臨床実習 | 臨床繁殖学実習Ⅰ | 1 | ４年後期 |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

教員移動による遠隔教育

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| モデル・コア・カリキュラム | | 相当科目名 | 単位数 | 開講時期 |
| 科目番号 | 科目名 |
| 2-7 | 寄生虫病学 | 獣医寄生虫病学 | 2 | 3年後期 |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

【自己評価2-25】コア科目のＩＣＴによる遠隔教育に関して、該当している項目に○を、該当しない項目に×をつけてください。

|  |  |
| --- | --- |
| 項　　目 | 該当／非該当 |
| a　遠隔授業のシステムに関するマニュアルがある。 |  |
| b　遠隔授業の実施に関するマニュアルがある。 |  |
| c　遠隔授業の効果を検証する体制がある。 |  |
| d　検証結果を改善につなげる仕組みがある。 |  |
| e　ＩＣＴによる遠隔授業の効果について、高い検証結果を得ている。 |  |

【自己評価2-26】コア科目の学生移動による遠隔教育に関して、該当している項目に○を、該当しない項目に×をつけてください。

|  |  |
| --- | --- |
| 項　　目 | 該当／非該当 |
| a　学生移動型教育の実施に関するマニュアルがある。 |  |
| b　学生移動型教育の効果を検証する体制がある。 |  |
| c　検証結果を改善につなげる仕組みがある。 |  |
| d　学生移動型教育の効果について、高い検証結果を得ている。 |  |

【自己評価2-27】コア科目の教員移動による遠隔教育に関して、該当している項目に○を、該当しない項目に×をつけてください。

|  |  |
| --- | --- |
| 項　　目 | 該当／非該当 |
| a　教員移動型教育の実施に関するマニュアルがある。 |  |
| b　教員移動型教育の効果を検証する体制がある。 |  |
| c　検証結果を改善につなげる仕組みがある。 |  |
| d　教員移動型教育の効果について、高い検証結果を得ている。 |  |

|  |
| --- |
| ※ 評価の視点2-1～27に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください（『獣医学教育評価ハンドブック』（14頁）の例のとおり、「評価の視点」ごとに自己点検・評価の結果の概要をまとめたうえで、長所、問題点を記述してください）。 |

**（２）学習成果**

|  |
| --- |
| ①　学習成果の測定  　獣医学教育（学士課程）の改善・充実を図るために、また自らが行った教育の社会に対する説明責任を果たすために、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したことを把握し、評価することが必要である。  ②　国家試験、卒後の進路  卒業生には獣医師として就業するための獣医師法に基づく国家試験の受験資格が与えられる。獣医学は複数の分野にまたがる学際的学問分野であることから、獣医学を修めた卒業生は、臨床や公衆衛生分野などにとどまらず社会において多様な活躍が期待される。しかしながら、獣医学教育は社会からの付託を受けている専門教育であり、獣医学教育の充実と発展における使命と役割を担っている。よって、学生の進路指導においては、獣医学またはその関連職域について適切に教授することが重要であり、卒業生の進路状況・活躍状況を把握することが肝要である。 |

＜学習成果の測定＞

【評価の視点2-28】学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学生の学習成果の修得状況を把握し、評価していること

●基本情報：学生の学習成果の修得状況を把握・評価している方法について記入してください。

|  |
| --- |
| 共用試験の実施など |

【自己評価2-28】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 学生の学習成果の把握・評価方法があり、かつ、それをもとにした教育改善が行われている。 | ４ |
|  | 学生の学習成果の把握・評価方法あるが、それをもとにした教育改善は行われていない。 | ３ |
|  | 学生の学習成果の把握・評価方法がない。 | ２ |

②　国家試験、卒後の進路

【評価の視点2-29】新卒者の獣医師国家試験の合格率が80％以上であること。

●基本情報：申請前年度までの５年間に行われた獣医師国家試験における新卒者の合格状況に関する情報を記入してください。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 受験者数(A) | 合格者数(B) | 合格率 (B/A ×100 %) |
| 2015 |  |  |  |
| 2014 |  |  |  |
| 2013 |  |  |  |
| 2012 |  |  |  |
| 2011 |  |  |  |

【自己評価2-29】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 申請前年度までの５年間に行われた獣医師国家試験において、合格率80％以上である年度が５回であった。 | ４ |
|  | 申請前年度までの５年間に行われた獣医師国家試験において、合格率80％以上である年度が４回であった。 | ３ |
|  | 申請前年度までの５年間に行われた獣医師国家試験において、合格率80％以上である年度が３回であった。 | ２ |
|  | 申請前年度までの５年間に行われた獣医師国家試験において、合格率80％以上である年度が２回以下であった。 | １ |

【評価の視点2-30】卒業生の進路状況・活躍状況を把握していること。

●基本情報：卒業生の進路状況・活躍状況を把握する仕組みについて記入してください。

|  |
| --- |
| 卒業生進路調査など |

【自己評価2-30】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 卒業生の進路状況・活躍状況を把握する仕組みがあり、把握が行われている。 | ３ |
|  | 卒業生の進路状況・活躍状況を把握する仕組みはあるが、十分には機能していない。 | ２ |
|  | 卒業生の進路状況・活躍状況を把握する仕組みがない。 | １ |

【評価の視点2-31】獣医師国家試験合格者の進路が獣医学に関連していること。

●基本情報：申請前年度までの５年間の獣医師国家試験合格者の進路に関連した情報（人数）を記入してください。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 国家試験合格者数  (A) | 獣医学関連進路 (B) | | | | | | その他 | 獣医学関連の  割合  (B/A×100 %) |
| 臨床  獣医師 | 公務員 | 民間  会社 | 教育職 | 進学 | その他 |
| 2015 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2014 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2013 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2012 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2011 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

【自己評価2-31】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 申請前年までの５年間の進路先として、獣医学関連への割合が80％以上である年度が５回あった。 | ４ |
|  | 申請前年までの５年間の進路先として、獣医学関連への割合が80％以上である年度が４回あった。 | ３ |
|  | 申請前年までの５年間の進路先として、獣医学関連への割合が80％以上である年度が３回あった。 | ２ |
|  | 申請前年までの５年間の進路先として、獣医学関連への割合が80％以上である年度が２回以下であった。 | １ |

|  |
| --- |
| ※ 評価の視点2-28～31に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください（『獣医学教育評価ハンドブック』（14頁）の例のとおり、「評価の視点」ごとに自己点検・評価の結果の概要をまとめたうえで、長所、問題点を記述してください）。 |

**３　学生の受け入れ**

|  |
| --- |
| ①　学生の受け入れ方針の設定、公表  各獣医学教育組織は、獣医学教育（学士課程）の目的に基づき、学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を定め、公表しなければならない。  ②　入学者選抜、定員管理  入学者の選抜の方法は、学生の受け入れ方針に従い、大学の責任において定める。選抜にあたっては、獣医学を修めるにふさわしい入学者を効果的に選ぶことができるように配慮する必要がある。また、獣医学においては、推薦入学・編入学・社会人入学等、多様な志願者層に対して積極的に門戸を開くことが望ましい。また、入学定員は、60～80人程度を標準とし、120人を越えないことが望ましい。適正な教育環境を保証するために、定員管理に努めなければならない。 |

＜学生の受け入れ方針の設定、公表＞

【評価の視点3-1】獣医学教育（学士課程）の目的に基づき、入学前の学習歴・知識水準・能力などの求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定めていること。

●基本情報：学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を下欄に記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 学生の受け入れ方針を定め、かつその方針に、入学前の学習歴・知識水準・能力などの求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示している。 | ３ |
|  | 学生の受け入れ方針を定めているが、その方針に、入学前の学習歴・知識水準・能力などの求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の全て、またはいずれかを示していない。 | ２ |
|  | 学生の受け入れ方針を定めていない。 | １ |

【評価の視点3-2】学生の受け入れ方針を公表していること。

●基本情報：学生の受け入れ方針の公表方法を下欄に記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | ウェブサイト及び大学案内等に掲載している。 | ３ |
|  | ウェブサイトまたは大学案内等に掲載している。 | ２ |
|  | 公表していない。 | １ |

＜入学者選抜、定員管理＞

【評価の視点3-3】学生の受け入れ方針に従って、適正に学生を受け入れていること。

【評価の視点3-4】多様な入試制度により、多様な志願者層に積極的に門戸を開いていること。

●基本情報：入学試験制度に関する情報を記入してください。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 入試区分 | 入学定員 | 入学者数 | 入学定員計に対する当該入試区分の入学定員の割合（％） | 入学者数計に対する当該入試区分の入学者数の割合（％） |
| 推薦入試Ⅱ | 4 | 5 | 13.3 | 14.3 |
| 一般入試（前期） | 26 | 28 | 86.7 | 80.0 |
| 編入学入試 | 若干名 | 2 | 定員外 | 5.7 |
| 計 | 30 | 35 |  |  |

【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 学生の受け入れ方針に沿った入学試験制度になっている。 | ３ |
|  | おおむね学生の受け入れ方針に沿った入学試験制度になっている。 | ２ |
|  | 学生の受け入れ方針に沿った入学試験制度になっていない。 | １ |

【自己評価3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 多様な学生を受け入れている。 | ３ |
|  | 学生の受け入れがやや画一的である。 | ２ |
|  | 学生の受け入れが画一的である。 | １ |

【評価の視点3-5】入学定員を適正に管理していること。

●基本情報：申請以前５年間の入学者に関する情報を記入してください。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 年　度 | 全入学定員 | 全入学者数 | 全入学者数／全入学定員（％） |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
| 合計 |  |  |  |

【自己評価3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 入学定員に対する入学者数比率が100％以上120％未満である。 | ３ |
|  | 入学定員に対する入学者数比率が80％以上100％未満または120％以上130％未満である。 | ２ |
|  | 入学定員に対する入学者数比率が80％未満または130％以上である。 | １ |

|  |
| --- |
| ※ 評価の視点3-1～5に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください（『獣医学教育評価ハンドブック』（14頁）の例のとおり、「評価の視点」ごとに自己点検・評価の結果の概要をまとめたうえで、長所、問題点を記述してください）。 |

**４　教員・教員組織**

|  |
| --- |
| ①　教育研究に関する組織  　獣医学の教育・研究活動は、教育組織の構成員の主体的・組織的な取り組みによって実施されなければならない。そのために、各獣医学教育組織は、教育の目的を最も効果的に達成できる教員組織、施設・設備及びその他の諸条件を備え、これを適切に管理運営する必要がある。  　教育の単位は、講座又は研究分野と必ずしも同じである必要はない。広範な領域にわたる獣医学教育（学士課程）を限られた時間のなかで効率よく行うため、最も適した制度を検討し、講座又は研究分野の枠にこだわらない教育単位を編成することが望ましい。また、それぞれの教育単位ごとに、各授業科目の内容に重複又は欠落が生じないよう考慮して、授業科目と担当教員を決定する必要がある。以上に基づき、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、教員組織の編制方針を定めることが必要である。  ②　教員組織  　獣医学に関わる教育組織の専任教員数は、学生入学定員数を30～120名とした場合、68～77名以上とすることが望ましい（別添１参照）。専任教員のほかに学内の兼担教員を、さらに学内外で各種の実務についている獣医師及び獣医学に関連する分野の専門家を兼任教員として活用する。また、教員の配置にあたっては、教育の継続性、年齢構成、男女共同参画に配慮することが望まれる。  ③　教員の募集・任免・昇格  　獣医学教育組織は、十分な教育研究能力や専門的知識・経験を備えた教員を任用するため、透明性のある手続等を定め、その公正な運用に努めることが必要である。  ④　教員の責務と資格  　教員は、教育と研究、社会貢献に努め、研究活動を基盤とした水準の高い教育を実施しなければならない。教員の資格判定に際しては、専任、兼担、兼任を問わず、教育研究・指導能力に加え、獣医学の教育と研究の両面にわたる業績、獣医医療の実践経験、学会や社会における活動に十分考慮する必要がある。また、教員はその資質向上を図るために、組織的かつ多面的にＦＤ活動に取り組まなければならない。 |

（別添１）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 講義科目： | モデル・コア・カリキュラム科目名 | 教員数 |
| 導入・基礎分野  （13科目） | 獣医学概論、獣医倫理・動物福祉学、獣医事法規、解剖学、組織学、発生学、生理学、生化学、薬理学、動物遺伝育種学、動物行動学、実験動物学、放射線生物学 | 12名以上の専任教員によって、獣医学概論を除く12科目を担当することが望ましい。 |
| 病態分野  （７科目） | 病理学、免疫学、微生物学、家禽疾病学、魚病学、動物感染症学、寄生虫病学 | ７名以上の専任教員によって、７科目を担当することが望ましい。 |
| 応用分野  （８科目） | 動物衛生学、公衆衛生学総論、食品衛生学、環境衛生学、毒性学、人獣共通感染症学、疫学、野生動物学 | ７名以上の専任教員によって、公衆衛生学総論を除く7科目を担当することが望ましい。 |
| 臨床科目  （23科目） | 内科学総論、臨床病理学、臨床薬理学、呼吸循環器病学、消化器病学、泌尿生殖器病学、内分泌代謝病学、臨床栄養学、神経病学、血液免疫病学、皮膚病学、臨床行動学、外科学総論、手術学総論、麻酔学、軟部組織外科学、運動器病学、臨床腫瘍学、眼科学、画像診断学、産業動物臨床学、馬臨床学、臨床繁殖学 | 21名以上の専任教員によって、内科学総論、外科学総論を除く21科目を担当することが望ましい。 |
| 実習科目 | モデル・コア・カリキュラム科目名 | 教員数 |
| 実習科目  （18科目） | 解剖学実習、組織学実習、生理学実習、生化学実習、薬理学実習、実験動物学実習、病理学実習、微生物学実習、寄生虫病学実習、動物衛生学実習、公衆衛生学実習、食品衛生学実習、毒性学実習、小動物内科学実習、小動物外科学実習、画像診断学実習、産業動物臨床実習、臨床繁殖学実習 | 18名以上の専任教員によって、18科目を担当することが望ましい。 |
| 総合参加型臨床実習  （１科目） |  | 学生10名当たり１名の専任教員が配置されることが望ましい。このうち３名は附属獣医教育病院の専任教員とすることが適切である。 |
|  |  | 合計　68～77名以上  ※学生数によって変動する |

（上記に関する付記事項）

(1)教員数は、欧米先進国の基準を考慮しつつ、獣医学にあって教授すべき基本科目であるモデル･コア・カリキュラムに示された講義並びに実習科目をもとに算出した。１科目に対して１名の専任教員を配置することを基本としたが、実際は各大学が定める講座等の組織並びに附属施設などの組織が有機的に分担して実施することが望ましい。

(2)教員は専任教員を基本とした。モデル･コア・カリキュラム以外のアドバンス科目、大学院教育、研究、さらに学生指導や学務などに携わらなければならず、体系的な教育組織を必要とする獣医学において責任ある教育活動を保証するためには、専任教員であることが必要である。

(3)学生定員ごとの必要専任教員数：

(例)　学生30～35名:教員68名 、 　学生40名:教員69名 、 学生60名:教員71名、

学生80名:教員73名 、 学生120名:教員77名。

＜教育研究に関する組織＞

【評価の視点4-1】教員組織の編制方針を定めていること。

●基本情報：教員組織の編制方針を下欄に記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 教員組織の編制方針を定めている。 | ３ |
|  | 教員組織の編制方針を定めているが、方針の内容が不十分である。 | ２ |
|  | 教員組織の編制方針を定めていない。 | １ |

＜教員組織＞

【評価の視点4-2】専任教員を中心に、獣医学教育（学士課程）に必要な教員を確保していること。

●基本情報：記入要領にしたがって、以下の教員名簿を作成してください。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 分　類 | 職名 | モデル・コア・カリキュラム相当  科目名 | 氏名 | 年齢  ･男女 | 当該科目の負担割合 | 獣医師免許の有無 | 備考 |
| 専任教員 | 教授 | ①獣医微生物学Ⅰ（例）  ②獣医微生物学Ⅱ（例）  ※モデル･コア・カリキュラム講義科目、モデル･コア・カリキュラム実習科目、非モデル･コア・カリキュラム科目の順に記載 | 山田太郎（例） | 45･男（例） | ①(10回分担当/15回の授業) （例）  ②(10回分担当/15回の授業) （例） | 有（例） |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
| 兼担教員 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
| 特任教員 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
| 臨床教員 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 分　類 | 所属  ・職名 | モデル・コア・カリキュラム相当科目名 | 氏名 | 当該科目の負担割合 | 獣医師免許の有無 | 備考 |
| 兼任教員 | ○○大学教授  （例） | 微生物学実習(例) | 山田太郎（例） | (３回分担当/15回の授業) （例） | 有（例） |  |
|  |  |  |  |  |  |  |

記入時の注意：

（1）申請前年５月１日現在で在職の教員名を記載すること。

（2）モデル･コア・カリキュラム講義科目、モデル･コア・カリキュラム実習科目、非モデル･コア・カリキュラム科目の順に記載する。

（3）兼担教員の場合は、所属学科名（課程）を記載のこと。

（4）兼任教員の場合は、所属機関を記載のこと。

（5）上記の分類に当てはまらない教員職種等がある場合には、下欄に記入すること。

|  |
| --- |
|  |

（6）教育研究歴以外の職歴がある場合には、備考欄に記入すること。

教員の種類とその定義

|  |  |
| --- | --- |
| 職　　名 | 定　　義 |
| 専任教員 | 大学設置基準の規定により、学科（もしくは課程）において必要最低限おくこととされた数に算入する者を専任教員という（文科省の考え方を基本に）。  学科制（もしくは課程制）を採用していない大学にあって、かつ上記の算入が困難な場合は、個々の教員が受け持つ獣医学生のための授業時間の総授業時間に対する割合から、明らかに獣医学教育が主務と見なせる教員の数を専任教員として申告すること。その際は、獣医学生のための授業担当時間の総授業時間に対する比を記入すること。所属長名で「獣医学教育が主務」であることを明記した申告書（様式は自由）を提出のこと。  附属施設（附属獣医教育病院、牧場、研究センター等）に所属し、定義からは専任教員とはいえない場合でも、その施設が明らかに獣医学科（もしくは課程）の管理下にあり、かつ当該の教員が主要科目（モデル・コア・カリキュラムの講義科目）を責任者として担当している場合には、専任教員として申告できる。この場合も、所属長名で「獣医学教育が主務」であることを明記した申告書（様式は自由）を提出のこと。 |
| 兼担教員 | 他の学部・学科（もしくは課程）・附属施設等に専任教員として所属する教員を兼担教員という。本評価では、モデル･コア・カリキュラム科目に相当する科目につき総コマ数の２／３を超える時間数を担当している者を兼担教員１とし、それ以下のコマ数を担当する教員を兼担教員２とする。モデル･コア・カリキュラム科目以外の、例えば獣医学のアドバンス科目や他学部との共通科目のみを担当する教員は含まない。 |
| 兼任教員（いわゆる非常勤講師） | 他の大学に専任教員として所属する者、他の職に従事している等により非常勤として当該専攻の授業を担当する者をいう。大学が時間雇傭または時限の研究費で雇傭する教員は含まない。報告書には、担当科目名、総授業時間に対する授業担当時間の比を記載すること。 |
| 特任教員 | 専任教員ではないが、これに相当する教員として学科（もしくは課程）に専属雇用されている者を特任教員という（管理職は除外）。本基準に記載できる特任教員は、専任教員と同等の責任を持って獣医学生のための教育を担当し、かつ給与が大学の運営費等から支出されている常勤教員が該当し、モデル･コア・カリキュラム科目に相当する科目につき総コマ数の２／３を超える時間数を担当している者とする。研究あるいは教育を目的とする時限の競争的資金等で雇用されている者を申告することは出来ない。 |
| 臨床教員 | 動物病院における日常の診療を行いつつ、モデル･コア・カリキュラムとして実施する総合参加型臨床実習を附属獣医教育病院の専任教員の指導監督下で担当する教員をいう。ただし、大学の運営費等あるいは病院運営経費等で常勤雇用され、かつ３年以上の臨床経験が必要とされる。さらに、特定診療科の専門医としての技量をもち、相当機関からの認定資格を有することが望ましい。詳細規定は各大学の定めるところによるが、個別規定についても審査の対象となる。 |

●基本情報：モデル・コア・カリキュラム担当教員の過去５年分の教育・研究業績を提出してください。

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 専任教員数の割合  （学生定員に準じた必要専任教員数に対する割合（％）） | 判定 |
|  | 80％以上 | ４ |
|  | 70以上80％未満 | ３ |
|  | 60以上70％未満 | ２ |
|  | 60％未満 | １ |

（※評価の視点4-3の基本情報における専任教員数の「合計」の値（共同教育課程の場合は合算値）を基礎として割合を算出し、自己評価の判定を決定してください）

【評価の視点4-3】専任教員を分野ごとに適正に配置していること。

●基本情報：導入・基礎分野、病態分野、応用分野、臨床分野の教科を担当している専任教員の数をそれぞれ以下の表に記入してください。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 分　野 | | 専任教員数 | ％ | 適正な範囲 | 範囲内に有る場合に〇を付してください。 |
| 導入・基礎分野 | | 20（9）  （共同教育課程の場合の例） | 25.0  （共同教育課程の場合の例） | 15～30％ | ○  （共同教育課程の場合の例） |
| 病態分野 | |  |  | 10～30％ |  |
| 応用分野 | |  |  | 10～30％ |  |
| 臨床分野 | 小動物 |  |  | 30～50％ |  |
| 産業動物 |  |  |
| 合　計 | |  |  |  |  |

（※専任教員の配置については、モデル・コア・カリキュラムの担当科目による。）

（※共同教育課程の場合、「専任教員数」には、自大学の獣医学教育学士課程の専任教員数と共同教育課程を構成するもう一方の獣医学教育学士課程の専任教員数との合算値を記入するともに、自大学の獣医学教育学士課程の専任教員数を括弧書きで併記してください。また、「％」は合算値をもとに算出してください）

【自己評価4-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 全ての分野が範囲内にある。 | ４ |
|  | おおむね全ての分野が範囲内にある。 | ３ |
|  | 範囲内にない分野がある。 | ２ |
|  | 全ての分野が範囲内にない。 | １ |

【評価の視点4-4】コア科目の実施にあたり、専任教員が適正に配置されていること。

【自己評価4-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 全てのコア科目担当者が関連の研究業績又は専門職経験を有し、担当者として相応しい。 | ３ |
|  | おおむね全てのコア科目担当者が関連の研究業績又は専門職経験を有し、担当者として相応しい。 | ２ |
|  | 多くのコア科目で相応しくない担当者がいる。 | １ |

【評価の視点4-5】アドバンス科目の実施にあたり、適正な担当者で実施されていること。

【自己評価4-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 全てのアドバンス科目担当者が関連の研究業績又は専門職経験を有し、担当者として相応しい。 | ３ |
|  | おおむね全てのアドバンス科目担当者が関連の研究業績又は専門職経験を有し、担当者として相応しい。 | ２ |
|  | 多くのアドバンス科目で相応しくない担当者がいる。 | １ |

【評価の視点4-6】専任教員の構成（獣医師免許保有状況、年齢、男女比）が適切であること。

●基本情報：専任教員の年齢別構成及び女性教員数について、以下に記入してください。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 職位 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代 | 計 |
| 教授数 |  |  |  |  |  |  |  |
| ％ | ％ | ％ | ％ | ％ | ％ | 100％ |
| 准教授（専任講師を含む）数 |  |  |  |  |  |  |  |
| ％ | ％ | ％ | ％ | ％ | ％ | 100％ |
| 助教数 |  |  |  |  |  |  |  |
| ％ | ％ | ％ | ％ | ％ | ％ | 100％ |
| 合計 |  |  |  |  |  |  |  |
| うち獣医師免許保有者数 |  |  |  |  |  |  |  |
| ％ | ％ | ％ | ％ | ％ | ％ | 100％ |
| うち女性教員数 |  |  |  |  |  |  |  |
| ％ | ％ | ％ | ％ | ％ | ％ | 100％ |

（※「合計」の「計」の値は、評価の視点4-3の基本情報における専任教員数の「合計」（共同教育課程の場合は合算値）と一致させてください）

【自己評価4-6】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

a 獣医師免許保有率

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 専任教員の獣医師免許保有率が70％以上である。 | ４ |
|  | 専任教員の獣医師免許保有率が60％～70％未満である。 | ３ |
|  | 専任教員の獣医師免許保有率が50％～60％未満である。 | ２ |
|  | 専任教員の獣医師免許保有率が50％未満である。 | １ |

b職位ごとの年齢構成

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 各職位の年齢構成のバランスが取れている。 | ３ |
|  | 各職位の年齢構成のバランスがおおむね取れている。 | ２ |
|  | 各職位の年齢構成に偏りがある。 | １ |

c女性教員の割合

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 女性教員の占める割合（％） | 判定 |
|  | 30％以上 | ４ |
|  | 20％以上30％未満 | ３ |
|  | 10％以上20％未満 | ２ |
|  | 10％未満 | １ |

＜教員の募集・任免・昇格＞

【評価の視点4-7】専門性に配慮した教員任用に関する公正な基準を設定していること。

●基本情報：教員任用を行うための基準を記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価4-7】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 教員任用を行うための基準は適切である。 | ３ |
|  | 教員任用を行うための基準の内容が不十分である。 | ２ |
|  | 教員任用を行うための基準がない。 | １ |

【評価の視点4-8】教員の任用に際して、透明性のある手続等を定めていること。

●基本情報：教員任用の際の手続を記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価4-8】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 教員任用の手続は適切である。 | ３ |
|  | 教員任用の手続に不備がある。 | ２ |
|  | 教員任用の手続規定がない。 | １ |

＜教員の責務と資格＞

【評価の視点4-9】専任教員のコア科目に関する講義負担が過度とならないよう配慮していること。

【自己評価4-9】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | コア科目に関する講義負担が過度な専任教員がいない。 | ４ |
|  | コア科目に関する講義負担が過度な専任教員はほとんどいない。 | ３ |
|  | コア科目に関する講義負担が過度な専任教員が半数以上存在する。 | ２ |
|  | コア科目に関する講義負担が過度な専任教員が多い。 | １ |

【評価の視点4-10】専任教員のコア科目に関する実習負担（参加型臨床実習を除く）が過度とならないよう配慮していること。

【自己評価4-10】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | コア科目に関する実習負担が過度な専任教員がいない。 | ４ |
|  | コア科目に関する実習負担が過度な専任教員はほとんどいない。 | ３ |
|  | コア科目に関する実習負担が過度な専任教員が半数以上存在する。 | ２ |
|  | コア科目に関する実習負担が過度な専任教員が多い。 | １ |

【評価の視点4-11】教員の資質向上を図るために組織的かつ多面的にＦＤ活動に取り組んでいること。

●基本情報：ＦＤの実施体制、実施内容を記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価4—11-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | ＦＤの実施体制は適切である。 | ３ |
|  | ＦＤの実施体制に不備がある。 | ２ |
|  | ＦＤの実施体制がない。 | １ |

【自己評価4—11-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | ＦＤの実施内容は適切である。 | ３ |
|  | ＦＤの実施内容に不備がある。 | ２ |
|  | ＦＤを実施していない。 | １ |

|  |
| --- |
| ※ 評価の視点4-1～11に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください（『獣医学教育評価ハンドブック』（14頁）の例のとおり、「評価の視点」ごとに自己点検・評価の結果の概要をまとめたうえで、長所、問題点を記述してください）。 |

**５　学生支援**

|  |
| --- |
| ① 修学支援  学生の修学支援として、学生の自主的な学習を促進させるさまざまな支援を行うことの他、学生の能力に応じた補習・補充教育の実施が重要である。また、障がいのある学生、留学生など多様な学生に対する修学支援等の充実を図り、学生生活の安定のために大学独自の奨学金その他の支援制度を整備し、これらを担う組織を設け、適切に運用しなければならない。  ② 生活支援  学生の生活支援として、心身の健康、保健衛生等に係る相談等に適切に対応するためにカウンセリング等の指導相談体制を整備し、学生の生活環境への配慮が必要である。また、学生が快適で安全な学生生活を送れるよう、学生の人権を保障するとともに、ハラスメントの防止に十分に配慮する必要がある。  ③ 進路支援  学生の進路支援として、進路支援に関する組織体制を整備して、進路選択に関わる指導・ガイダンスを適切に実施する必要がある。  （※　本項目における体制整備は、全学的な対応でよい。） |

＜修学支援・生活支援＞

【評価の視点5-1】学生生活に関する相談・支援体制を整備し、適切に支援していること。

●基本情報：学生生活に関する相談・支援体制を記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価5-1】当てはまる自己評価欄に○をつつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 学生生活に関する相談・支援体制があり、適切に支援を行っている。 | ３ |
|  | 学生生活に関する相談・支援体制はあるが、支援が不十分である。 | ２ |
|  | 学生生活に関する相談・支援体制がない。 | １ |

【評価の視点5-2】学生の自主的な学習を促進させる取り組みの支援、学生の能力に応じた補習・補充教育を実施していること。

●基本情報：学生の自主的な学習を促進させる取り組み等を記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価5-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 学生の自主的な学習を促進させる取り組みがあり、適切に支援を行っている。 | ３ |
|  | 学生の自主的な学習を促進させる取り組みはあるが、支援が不十分である。 | ２ |
|  | 学生の自主的な学習を促進させる取り組みがない。 | １ |

【評価の視点5-3】障がいのある学生、留学生など多様な学生への支援体制を整備し、実施していること。

●基本情報：多様な学生への支援体制、取り組みを記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価5-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 多様な学生への支援体制があり、適切に支援を行っている。 | ３ |
|  | 多様な学生への支援体制はあるが、支援が不十分である。 | ２ |
|  | 多様な学生への支援体制がない。 | １ |

【評価の視点5-4】学生生活の安定のために、奨学金その他の支援制度を整備していること。

●基本情報：奨学金その他の経済的な支援制度を記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価5-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 奨学金その他の経済的な支援制度があり、適切に支援を行っている。 | ３ |
|  | 奨学金その他の経済的な支援制度はあるが、支援が不十分である。 | ２ |
|  | 奨学金その他の経済的な支援制度がない。 | １ |

【評価の視点5-5】心身の健康、保健衛生等に係る相談等に適切に対応するためにカウンセリング等の指導相談体制を整備し、実施していること。

●基本情報：心身の健康、保健衛生等に係る相談体制を記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価5-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 心身の健康、保健衛生等に係る相談体制があり、適切に実施している。 | ３ |
|  | 心身の健康、保健衛生等に係る相談体制はあるが、十分な対応ができていない。 | ２ |
|  | 心身の健康、保健衛生等に係る相談体制がない。 | １ |

【評価の視点5-6】学生の人権を保障し、ハラスメントの防止に十分に配慮していること。

●基本情報：ハラスメント防止のための規程、体制を記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価5-6-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | ハラスメント防止のための規程がある。 | ３ |
|  | ハラスメント防止のための規程がない。 | ２ |

【自己評価5-6-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | ハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。 | ３ |
|  | ハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。 | ２ |
|  | ハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。 | １ |

＜進路支援＞

【評価の視点5-7】進路支援に関する組織体制を整備して、進路選択に関わる指導・ガイダンス等を適切に実施していること。

●基本情報：進路支援に関する体制、取り組みを記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価5-7】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 進路支援に関する体制があり、適切に実施している。 | ３ |
|  | 進路支援に関する体制はあるが、実施が不十分である。 | ２ |
|  | 進路支援に関する体制がない。 | １ |

|  |
| --- |
| ※ 評価の視点5-1～7に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください（『獣医学教育評価ハンドブック』（14頁）の例のとおり、「評価の視点」ごとに自己点検・評価の結果の概要をまとめたうえで、長所、問題点を記述してください）。 |

**６　教育研究等環境**

|  |
| --- |
| ①　施設・設備  　獣医学教育（学士課程）に関わる施設・設備は、教育上の必要性とともに、獣医学における研究成果の生物産業への展開など、獣医学に対する社会的要請への対応と、動物福祉、先端医療などの地域社会における大学の使命も考慮して整備しなければならない。そのため、獣医学教育として設置すべき施設・設備の他、大学の特色や地域の特性に応じて設置が求められる施設・設備がある。よって、必要に応じて、共同利用施設として対応する必要がある。  ②　各獣医学教育組織が設置する必要がある施設・設備  獣医学教育（学士課程）に必要な講義室、実習・実験室、研究室等の施設・設備を整備しなければならない。また、獣医学の教育研究に必要な質・量ともに十分な学術情報資料を系統的に集積し、学生の学習、教員の教育研究活動等に資するよう整備し、その効果的な利用を促進する必要がある。さらに、実験動物を飼養する施設を整備し、適正な動物実験を実施しなければならない。これらの環境整備にあたっては、「動物の愛護及び管理に関する法律」及び「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」を遵守するとともに、所轄官庁の「動物実験等の実施に関する基本指針」及び日本学術会議が策定した「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」に従って、国際的に広く普及している３Ｒ (Replacement、Reduction、Refinement) の原則を尊重する必要がある。  各獣医学教育組織は、獣医学教育上、特に必要性を有する附属施設として、獣医学教育病院（動物病院、動物医療センター、獣医臨床センター）を設置しなければならない（注７）。また、獣医学教育病院には、必要な数の専任教員・臨床教員及び動物看護師等の支援スタッフを配置する必要がある。さらに、獣医学教育病院は、獣医学教育（学士課程）に資するだけでなく、地域の中核となる専門病院（地域獣医師及び住民への指導的役割を果たす施設）としての機能のほかに、卒後教育の場として活用することが望ましい。  ③　各獣医学教育組織が選択して設置することが望ましい附属施設  　各獣医学教育組織は、地域の条件や大学のおかれている状況を考慮し、可能な限り、大学ごとに特徴ある施設及び大学間共同利用施設を設置することが望ましい。  　各獣医学教育組織が選択して設置することが望ましい施設については、例えば、専門に特化した研修センター（公衆衛生研修センター、野生動物臨床研修センター、毒性安全性研修センター、獣医熱帯病研修センター）などが考えられる。これらの施設については、大学間で相互利用できるよう積極的な対応を図ることが望ましい。また、各獣医学教育組織はその設置にあたって、既に設置されている施設と重複しないよう考慮する必要がある。  ④　研究倫理や研究・診療活動の不正防止  研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する規定を明文化し、これらに関わる教育を行うとともに、適切な組織のもと研究倫理の遵守を図り、適切に研究・診療活動を実施することが必要である。  ⑤　国際性を踏まえた教育環境の整備  獣医学教育組織は国際感覚を備えた社会的な教養を備えた者を育成するため、学生の海外派遣、留学生の受け入れ、英語による授業、外国人教員の雇用等を積極的に行うなど、グローバル化に対応した環境を構築することが望ましい。  （注７）大学設置基準第39条に規定される「家畜病院」は、獣医学教育に必置の施設との趣旨を徹底させるため、及び欧米先進国における呼称との整合性を保つため、例えば「獣医学教育病院」と名称変更するとともに、獣医学教育の一定の水準を確保するために、以下の内容に適合させることが望ましい。  (1)　附属獣医学教育病院の面積は１学年の入学定員が60名までの場合5,000平方メートルを下回らないものが望まれる。60名を越える場合は、越えた人数に応じて相当の面積を増加するものとすること。  (2)　施設内には、診療施設に加えて、臨床教育施設として、視聴覚設備を備えた臨床実習室と臨床講義室を設けること。  (3)　獣医学教育病院には患畜を用いた研究の実施が可能な設備を設置すること。  (4)　獣医学教育病院には各獣医学教育組織の特色に応じて複数の診療科を設けるとともに、救急医療等の機能を併設すること。  (5)　獣医学教育病院は卒後教育の場としても活用すること。  (6)　獣医学教育病院には必要な専任の教員・臨床教員に加えて動物看護師、薬剤師などの支援スタッフも配置すること。 |

＜施設・設備＞

【評価の視点6-1】獣医学教育に必要な講義室、実習・実験室、研究室等の施設を整備していること。

【自己評価6-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 獣医学教育に必要な講義室、実習・実験室、研究室等の施設を整備している。 | ３ |
|  | 獣医学教育に必要な講義室、実習・実験室、研究室等の施設が不十分である。 | ２ |
|  | 獣医学教育に必要な施設がない。 | １ |

● 獣医学教育に必要な施設・設備に不足がある場合、その施設・設備を記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【評価の視点6-2】獣医学教育研究に必要な学術情報資料を整備し、学生及び教員が適切に情報を入手できるよう対応を行っていること。

【自己評価6-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 獣医学教育に必要な学術情報資料を整備している。 | ３ |
|  | 獣医学教育に必要な学術情報資料が不十分である。 | ２ |
|  | 獣医学教育に必要な学術情報資料がない。 | １ |

● 獣医学教育に必要な学術情報資料の学生や教員への提供方法を記入してください。

|  |
| --- |
|  |

● 獣医学教育に必要な学術情報資料に不足がある場合、その学術情報資料を記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【評価の視点6-3】動物実験倫理・動物福祉に配慮した実験動物の飼養に関する施設・設備を整備していること。

●基本情報：実験動物に関する施設の整備状況について下記の項目に該当するかどうかを記入してください。

　　　　記載方法：〇＝該当する、△＝代替で対応（備考で説明）、×＝該当しない

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 項目 | | | 該当／非該当 | 備考（代替など） |
| 動物施設  動物施設 | 機能と設計 | 1.飼育動物種に応じた環境になっている。 |  |  |
| 2.関係者以外の立ち入りを防ぐ構造になっている。 |  |  |
| 3.動物の外部からの侵入を防ぐ構造になっている。 |  |  |
| 4.動物の逃亡を防ぐ構造になっている。 |  |  |
| 飼育室 | 5.清掃のために必要な措置がとられている。 |  |  |
| 6.全ての表面は、飼育や清掃、その他の作業に耐えうるものになっている。 |  |  |
| 7.床面は平滑かつ滑りにくいものになっている。 |  |  |
| 8.動物や人にとって安全衛生上有害・危険なものは飼養されていない。 |  |  |
| 9.排水孔がある場合、外部からの侵入や、逃亡防止のための適切な蓋等が設置されている。 |  |  |
| 10.感染動物飼育室が設置されている。 |  |  |
| 準備室等 | 11.診断や死後検査を行うことのできる設備が設置されている。 | △（例） | 病理解剖室と検査室が隣接している（例） |
| 12.検疫や疾病に罹患した動物のための隔離室が整備されている。 |  |  |
| 保管・管理室 | 13.飼料・床敷きを衛生的に管理できる環境となっている。 |  |  |
| 14.排泄物・死体を衛生的に保管できる設備が整っている。 |  |  |
| 飼育環境とその管理 | | 15.使用者の安全と衛生が確保されている。 |  |  |
| 16.飼育管理責任者がいる。 |  |  |
| 17.換気を十分に行うことのできる環境を整えている。 |  |  |
| 18.動物種に応じた温度と湿度の管理を行うことができる設備が設置されている。 |  |  |
| 19.動物種に応じた明暗周期の制御できる設備が備わっている。 |  |  |
| 20.緊急時の連絡先が掲示されている。 |  |  |
| 実験の審査体制・教育訓練 | | 21.施設を用いて行う動物実験が、然るべき委員会で審査される体制になっている。 |  |  |
| 22.飼育に関わる者は事前に教育訓練を受ける体制になっている。 |  |  |

【自己評価6-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 全てが〇である。 | ４ |
|  | ○が８割以上であり、かつ残りが全て△である。 | ３ |
|  | ×が２つ以内である。 | ２ |
|  | ×が３つ以上である。 | １ |

【評価の視点6-4】動物実験倫理・動物福祉に配慮した動物実験に関する学内規則・飼養管理マニュアル等を整備していること。

●基本情報：動物実験に関する学内規則・飼養管理マニュアル等の書類を添付するか、公開しているウェブサイトのＵＲＬを記入してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 書類添付 （添付＝〇） | ウェブサイトのＵＲＬ |
| 学内規則 |  |  |
| 飼養管理  マニュアル |  |  |

【自己評価6-4】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 学内規則及び飼養管理マニュアルがともに整備されている。 | ３ |
|  | 学内規則もしくは飼養管理マニュアルいずれしかない。又は双方もしくはいずれか一方の内容に不備がある。 | ２ |
|  | 学内規則及び飼養管理マニュアルがともに整備されていない。 | １ |

【評価の視点6-5】学内規則に従い動物実験に関して監督指導する委員会を設置していること。

●基本情報：動物実験に関して監督指導する委員会の委員名簿の書類を添付するか、公開しているウェブサイトのＵＲＬを記入してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 書類添付 （添付＝〇） | ウェブサイトのＵＲＬ |
| 委員会委員名簿 |  |  |

【自己評価6-5】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 動物実験に関して監督指導する委員会が設置され、十分に活動している。 | ３ |
|  | 動物実験に関して監督指導する委員会設置されているが、活動が不十分である。 | ２ |
|  | 動物実験に関して監督指導する委員会が設置されていない。 | １ |

【評価の視点6-6】病原体等利用実験の法律等に基づいた学内規則・管理マニュアル等を整備していること。

●基本情報：病原体等利用実験に関する学内規則・管理マニュアル等の書類を添付するか、公開しているウェブサイトのＵＲＬを記入してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 書類添付 （添付＝〇） | ウェブサイトのＵＲＬ |
| 学内規則 |  |  |
| 管理マニュアル |  |  |

【自己評価6-6】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 学内規則及び管理マニュアルがともに整備されている。 | ３ |
|  | 学内規則もしくは管理マニュアルのいずれしかない。又は、双方もしくはいずれか一方の内容に不備がある。 | ２ |
|  | 学内規則及び管理マニュアルがともに整備されていない。 | １ |

【評価の視点6-7】学内規則に従い病原体等利用実験に関して監督指導する委員会を設置していること。

●基本情報：病原体等利用実験に関して監督指導する委員会の委員名簿の書類を添付するか、公開しているウェブサイトのアドレスを記入してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 書類添付 （添付＝〇） | ウェブサイトのＵＲＬ |
| 委員会委員名簿 |  |  |

【自己評価6-7】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 病原体等利用実験に関して監督指導する委員会が設置され、十分に活動している。 | ３ |
|  | 病原体等利用実験に関して監督指導する委員会は設置されているが、活動が不十分である。 | ２ |
|  | 病原体等利用実験に関して監督指導する委員会が設置されていない。 | １ |

【評価の視点6-8】遺伝子組換実験の法令に基づいた学内規則・管理マニュアル等を整備していること。

●基本情報：遺伝子組換実験に関する学内規則・飼養管理マニュアル等の書類を添付するか、公開しているウェブサイトのＵＲＬを記入してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 書類添付 （添付＝〇） | ウェブサイトのＵＲＬ |
| 学内規則 |  |  |
| 管理マニュアル |  |  |

【自己評価6-8】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 学内規則及び管理マニュアルがともに整備されている。 | ３ |
|  | 学内規則もしくは管理マニュアルのいずれしかない。又は、双方もしくはいずれか一方の内容に不備がある。 | ２ |
|  | 学内規則及び管理マニュアルがともに整備されていない。 | １ |

【評価の視点6-9】学内規則に従い遺伝子組換実験に関して監督指導する委員会を設置していること。

●基本情報：遺伝子組換実験に関して監督指導する委員会の委員名簿の書類を添付するか、公開しているウェブサイトのアドレスを記入してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 書類添付 （添付＝〇） | ウェブサイトのＵＲＬ |
| 委員会委員名簿 |  |  |

【自己評価6-9】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 遺伝子組換実験に関して監督指導する委員会が設置されている。 | ３ |
|  | 遺伝子組換実験に関して監督指導する委員会は設置されているが、活動が不十分である。 | ２ |
|  | 遺伝子組換実験に関して監督指導する委員会が設置されていない。 | １ |

＜各獣医学教育組織が設置する必要がある施設・設備＞

【評価の視点6-10】附属獣医学教育病院の施設・設備を参加型臨床実習等の教育に活用できるように整備していること。

●基本情報：附属獣医学教育病院の施設・設備に関して、該当している項目に○を、該当しない項目に×をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 項　　目 | 該当／  非該当 |
| 必 須  項 目  必 須  項 目  必 須  項 目 | １．小動物診察室：学生、教員、スタッフ（合計５名以上）が診察できる広さの室で、同一時間帯に同時に参加型臨床実習等を行う学生グループ数以上の数。 |  |
| ２．小動物処置室：処置台を１台以上有し、学生、教員、スタッフが症例の診断や処置を行うために必要な広さで、同一時間帯に同時に参加型臨床実習等を行う学生グループ数以上の数。 |  |
| ３．小動物臨床検査室：通常の診療に必要な検査ならびに参加型臨床実習等に必要な広さの室。 |  |
| ４．小動物Ｘ線検査室：X線診断装置を設置し、学生、教員、スタッフが検査を行うことができる広さの室。 |  |
| ５．小動物超音波検査室：超音波診断装置を設置し、学生、教員、スタッフが検査を行うことができる広さの室。 |  |
| ６．小動物内視鏡検査室：内視鏡と麻酔装置を設置し、学生、教員、スタッフが検査を行うことができる広さの室。 |  |
| ７．小動物理学療法室（リハビリ室）：学生、教員、スタッフが動物のリハビリに用いる室またはスペース。 |  |
| ８．小動物手術準備室：必要な機器が設置され、学生、教員、スタッフが麻酔や手術準備を行うことができる広さの室。 |  |
| ９．小動物手術室：学生、教員、スタッフが余裕を持って手術を行うことができる広さの室（各手術室は手術内容等により異なる手術に対応できる）で、年間手術数に対応できる数。術中の手技等を観察できるモニター等の設置が望ましい。 |  |
| 10．小動物回復室：必要な機器を設置し、学生、教員、スタッフが術後の監視、管理を行う室。 |  |
| 11．小動物入院室：各種動物に対応した広さの室（処置室を併設）で、入院動物数に対応した数。 |  |
| 12．小動物集中治療室：術後や重症例などを集中治療する室。 |  |
| 13．小動物隔離入院室：伝染する可能性のある感染症例を入院させる室。 |  |
| 14．薬剤・器材庫：診療に用いる薬剤（麻薬、毒薬、劇薬等を含む）、器材の倉庫。 |  |
| 15．滅菌室：滅菌器を設置し、診療や手術に用いる機器等を消毒・滅菌するための室。 |  |
| 16．ロッカー室：学生、教員、スタッフの着替え室で、診療室と手術前室の両方にあることが望ましい。 |  |
| 17．シャワー室：学生、教員、スタッフがシャワーを浴びるための室で、男女別が望ましい。 |  |
| 18．カンファレンスルーム（症例検討・セミナー室）：投影設備、ディスプレイ、院内LANなどを設置し、学生、教員、スタッフが症例の検討や講義に使用できる室で、同一時間帯に同時に検討、講義を行う学生グループ数以上の数。 |  |
| 19．大動物診療室：大型の枠場を設置し、学生、教員、スタッフが牛、馬の診療を行うことができる広さの室。 |  |
| 20．大動物入院室：罹患牛、馬を個別に収容できる室。 |  |
| 21．大動物手術室：手術関係者の安全に配慮した構造で、学生、教員、スタッフが牛、馬の全身麻酔手術を実施できる十分な広さの室。 |  |
| 22．大動物麻酔覚醒室：関係者の安全に配慮した構造で、学生、教員、スタッフが牛、馬の麻酔導入時と覚醒時に使用する室。 |  |
| 23．大動物手術台：牛、馬の全身麻酔時に使用する手術台。 |  |
| 任 意  項 目 | １．放射線治療装置：参加型臨床実習等に用いる。 |  |
| ２．PET-CT：参加型臨床実習等に用いる。 |  |
| ３．筋電図、誘発脳波などの電気生理学的診断装置：参加型臨床実習等に用いる。 |  |
| ４．CアームX線透視撮影装置：参加型臨床実習等に用いる。 |  |
| ５．超音波凝固装置：参加型臨床実習等に用いる。 |  |
| ６．手術用顕微鏡：参加型臨床実習等に用いる。 |  |
| ７．白内障手術関連装置：参加型臨床実習等に用いる。 |  |

【自己評価6-10】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 必須項目のうち20項目（約90％）以上、かつ任意項目のうち５項目以上が〇である。 | ４ |
|  | 必須項目のうち18項目（約80％）以上、かつ任意項目のうち３項目以上が〇である。 | ３ |
|  | 必須項目のうち16項目（約70％）以上、かつ任意項目のうち２項目以上が○である。 | ２ |
|  | 必須項目のうち○が15項目以下である。 | １ |

【評価の視点6-11】附属獣医学教育病院で実施する参加型臨床実習及び日常の診療・教育等に必要な専任教員と臨床教員（教員）、及び病院専任獣医師、研修獣医師と動物看護師等の支援スタッフ（スタッフ）を配置していること。

●基本情報：附属獣医学教育病院の人員に関して、該当している項目に○を、該当しない項目に×をつけてください。

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 該当／  非該当 |
| １．教員（専任教員、臨床教員等）：同一時間帯に同時に参加型臨床実習等に参加する学生数や学生グループ数に見合う教員数。 |  |
| ２．スタッフ（病院専任獣医師、研修獣医師、動物看護師等）：参加型臨床実習等を補助し、円滑に実施するために必要な数。 |  |
| ３．薬剤を管理する獣医師または薬剤師：適正な薬剤管理に必要な数。 |  |
| ４．事務管理者等：病院運営及び参加型臨床実習等に必要な事務管理ができる数。 |  |

【自己評価6-11】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 上記４項目のいずれも○である。 | ４ |
|  | 上記４項目のうち３項目は○であるが、教員、スタッフの負担が大きい。 | ３ |
|  | 上記４項目のうち薬剤管理と事務管理は適正であるが、教員数及びスタッフ数が不足している。 | ２ |
|  | 上記いずれの項目も十分な数のスタッフが配置されていない。 | １ |

【評価の視点6-12】附属獣医学教育病院で参加型臨床実習等のために十分数の患畜（症例）を診療していること。

●基本情報：附属獣医学教育病院の症例数に関して、該当している項目に○を、該当しない項目に×をつけてください。

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 該当  ／非該当 |
| １．小動物（犬、猫、エキゾチックペット等）の年間延症例数（初診と再診をいずれも含む）が１学年の学生１人あたり50頭以上であり、かつ参加型臨床実習等で学生に十分な数の症例を経験させている。 |  |
| ２．牛、馬の症例を診療し、参加型臨床実習等で学生にも十分な数の症例を経験させている。 |  |
| ３．農業共済診療施設等と連携し、学生に十分な数の牛の症例を経験させている。 |  |
| ４．豚、綿羊、山羊、鶏、その他の動物種を診療し、学生に経験させている |  |

【自己評価6-12】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 小動物の診療数及び学生の経験症例数は十分である。かつ学内の大動物診療施設または共済診療施設等での学生の大動物経験症例数も十分である。また、その他の動物の診療も経験させている。 | ４ |
|  | 小動物の診療数及び学生の経験症例数は十分である。大動物症例は、すべて農業共済診療施設の協力のもとで実施しているが、適正に連携し学生には十分な数の症例を経験させている。他の動物種の診療は行っていない。 | ３ |
|  | 小動物の診療数及び学生の経験症例数は十分である。大動物の症例数は十分ではない。他の動物種の診療は行っていない。 | ２ |
|  | 小動物診療数、大動物診療数とも十分ではなく、学生に十分な数を経験させていない。 | １ |

【評価の視点6-13】附属獣医学教育病院において参加型臨床実習等を適切に実施していること。

●基本情報：附属獣医学教育病院における参加型臨床実習等に関して、該当している項目に○を、該当しない項目に×をつけてください。

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 該当  /非該当 |
| １．飼い主及び院内スタッフとのコミュニケーション法や診療時の注意点について、実習前に学生に適切に説明している。 |  |
| ２．実習の際の服装等に関して、学生に指示している。 |  |
| ３．実習で経験した症例に関して実習後に学生に発表させ、教員、スタッフと討論している。 |  |
| ４．附属獣医学教育病院に来院する飼い主に対して、学生が実習生として診療に参加することを適切に明示し周知している。 |  |
| ５．学生が診療に参加することについて、必ず診療前に飼い主の了解を得ている。 |  |
| ６．学生が行う獣医療行為に関するガイドラインを設けている。 |  |
| ７．学生が動物を損傷した際の飼い主に対する補償について対応している。 |  |

【自己評価6-13】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | ６項目以上を満たしている。 | ４ |
|  | ４ないし５項目を満たしている。 | ３ |
|  | ３項目を満たしている。 | ２ |
|  | 満たしているのは２項目以下である。 | １ |

【評価の視点6-14】附属獣医学教育病院が、獣医学教育（学士課程）の実施のために十分に活用されていること。

●基本情報：申請年度までの５年間において附属獣医学教育病院を獣医学教育（学士課程）に活用した状況を記入してください。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 科目名／講習会名 | 対象学年（人数） | 参照資料等 |
| 2015 | 総合参加型臨床実習 | X年生（YY名） | 20xx年度シラバス　p.xx-xx |
| 2014 | ・・・・学実習 | X年生（YY名） | 20xx年度シラバス　p.xx-xx |
| 2013 |  |  |  |
| 2012 |  |  |  |
| 2011 |  |  |  |

【自己評価6-14】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 総合参加型臨床実習及び４科目以上の臨床獣医学関連の教育科目で活用されている。 | ４ |
|  | 総合参加型臨床実習及び２科目以上の臨床獣医学関連の教育科目で活用されている。 | ３ |
|  | ２科目以上の臨床獣医学関連の教育科目で活用されているが、総合参加型臨床実習は実施されていない。 | ２ |
|  | 上記以外である。 | １ |

＜各獣医学教育組織が選択して設置することが望ましい附属施設＞

【評価の視点6-15】大学ごとに特徴ある附属施設を有しているか。

●基本情報：附属施設の名称及びその機能について、記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価6-15】附属施設の特色について、記入してください（任意）。

|  |
| --- |
|  |

＜研究倫理や研究・診療活動の不正防止＞

【評価の視点6-16】研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する規定を明文化していること。

【自己評価6-16】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する規定がある。 | ３ |
|  | 研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する規定があるが、不十分である。 | ２ |
|  | 研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する規定がない。 | １ |

【評価の視点6-17】研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する適切な組織のもと、これらに関わる教育を行うなど研究倫理や研究・診療活動の不正防止の遵守を図っていること。

●基本情報：研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する適切な組織、研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する取り組みについて、記入してください。

|  |
| --- |
|  |

【自己評価6-17】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する組織があり、十分な取り組みが行われている。 | ３ |
|  | 研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する組織はあるが、取り組みが十分ではない。 | ２ |
|  | 研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する組織がない。 | １ |

＜国際性を踏まえた教育環境の整備＞

【評価の視点6-18】学生の海外派遣及び受け入れを適切に行っていること。

●基本情報：申請年度までの５年間に獣医学教育組織が行った学生の海外への派遣者数を記入してください。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 学生の海外への派遣者数 | 人数 | 備考 |
| 2015 | 学生のタイ派遣（例） | 5名（例） |  |
| 2014 |  |  |  |
| 2013 |  |  |  |
| 2012 |  |  |  |
| 2011 |  |  |  |

【自己評価6-18-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 学生の海外派遣を５年間で２回以上行っている。 | ３ |
|  | 学生の海外派遣を５年間で１回行っている。 | ２ |
|  | 学生の海外派遣が５年間で１回もない。 | １ |

●基本情報：申請年度までの５年間に獣医学教育組織が受け入れた留学生数を記入してください。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 留学生の国名 | 受け入れ人数 | 備考 |
| 2015 | タイからの留学生（例） | 5名（例） |  |
| 2014 |  |  |  |
| 2013 |  |  |  |
| 2012 |  |  |  |
| 2011 |  |  |  |

【自己評価6-18-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 留学生の受け入れを５年間で２回以上行っている。 | ３ |
|  | 留学生の受け入れを５年間で１回行っている。 | ２ |
|  | 留学生の受け入れが５年間で１回もない。 | １ |

【評価の視点6-19】当該獣医学教育におけるグローバル化を推進するための積極的な取り組みを行っているか。

【自己評価6-19】当該獣医学教育におけるグローバル化を推進するための積極的な取り組みを記入してください。

|  |
| --- |
|  |

|  |
| --- |
| * 評価の視点6-1～19に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください（『獣医学教育評価ハンドブック』（14頁）の例のとおり、「評価の視点」ごとに自己点検・評価の結果の概要をまとめたうえで、長所、問題点を記述してください）。 |

**７　社会連携・社会貢献**

|  |
| --- |
| ①　社会連携・社会貢献  　獣医学教育組織は、地域社会の住民及び獣医師に生涯学習の機会を提供する重要な役割を担っている。そのため、地域や大学のおかれている状況を考慮し、大学ごとに特徴あるプログラムを準備することが求められる。また、各大学で獣医学教育組織が獣医学の教育・研究の活性化を図るためには、獣医職全体の質的向上が不可欠であり、獣医師向け生涯学習の実施はその意味で重要である。また、一般社会の多様な学習需要に応えるため、公開講座等も行う必要がある。 |

＜社会連携・社会貢献＞

【評価の視点7-1】生涯学習の機会を提供するため、獣医師を対象とした学術講習、研修等を実施していること。

●基本情報：申請年度までの５年間に獣医学教育組織が獣医師を対象に行った学術講習、研修等に関する情報を記入してください。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 年度 | 科目名／講習会名 | 対象（人数） | 参照資料等 |
| 地域獣医師を対象とした学術講習、研修等 | 2015 | ・・・・・セミナー | 小動物獣医師（YY名） | HP: ------------.html |
| 2014 |  |  |  |
| 2013 |  |  |  |
| 2012 |  |  |  |
| 2011 |  |  |  |

【自己評価7-1-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 獣医師を対象とした学術講習、研修等を５年間で２回以上開催している。 | ４ |
|  | 獣医師を対象とした学術講習、研修等を５年間で１回開催している。 | ３ |
|  | 獣医師を対象とした学術講習、研修等を５年間で１回も開催していない。 | ２ |

●基本情報：申請年度までの５年間の附属獣医学教育病院を活用した卒後・生涯教育（獣医師・地域住民対象のセミナー等）に関する情報を記入してください。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 年度 | 科目名／講習会名 | 対象（人数） | 参照資料等 |
| 地域獣医師を対象としたセミナー等 | 2015 | ・・・・・セミナー | 小動物獣医師（YY名） | HP: -------------.html |
| 2014 |  |  |  |
| 2013 |  |  |  |
| 2012 |  |  |  |
| 2011 |  |  |  |
| 地域住民を対象としたセミナー等\* | 2015 | ・・・・・セミナー | 〇〇市民（YY名） | HP: -------------.html |
| 2014 |  |  |  |
| 2013 |  |  |  |
| 2012 |  |  |  |
| 2011 |  |  |  |

\*附属獣医学教育病院の特徴を活かした講演等であれば、他組織主催のセミナー・講演会でも構いません。

【自己評価7-1-2】　下記の表1と表2に、当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

表1．地域獣医師対象のセミナー等の開催（a）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 平均年10回以上開催している。 | ４ |
|  | 平均年６回以上開催している。 | ３ |
|  | 平均年４回以上、開催している。 | ２ |
|  | 上記より少ない開催である。 | １ |

表2．地域住民対象のセミナー等の開催（b）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 平均年１回以上開催している。 | ３ |
|  | 平均年１回以下の開催である。 | ２ |
|  | 全く開催していない。 | １ |

【評価の視点7-2】生涯学習の機会を提供するため、一般市民を対象とした公開講座等を実施していること。

●基本情報：申請年度までの５年間に獣医学教育組織が一般市民を対象に行った公開講座等に関する情報を記入してください。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 年度 | 科目名／講習会名 | 対象（人数） | 参照資料等 |
| 一般市民を対象としたセミナー等 | 2015 | ・・・・・セミナー | 〇〇市民（YY名） | HP: -------------.html |
| 2014 |  |  |  |
| 2013 |  |  |  |
| 2012 |  |  |  |
| 2011 |  |  |  |

\*獣医学教育課程の特徴を活かした講演等であれば、他組織主催のセミナー・講演会でも構いません。

【自己評価7-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 一般市民対象のセミナー等を５年間で３回以上開催している。 | ４ |
|  | 一般市民対象のセミナー等を５年間で２回開催している。 | ３ |
|  | 一般市民対象のセミナー等を５年間で１回開催している。 | ２ |
|  | 一般市民対象のセミナー等を５年間で全く開催していない。 | １ |

|  |
| --- |
| * 評価の視点7-1、2に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください（『獣医学教育評価ハンドブック』（14頁）の例のとおり、「評価の視点」ごとに自己点検・評価の結果の概要をまとめたうえで、長所、問題点を記述してください）。 |

**８　点検・評価、情報公開**

|  |
| --- |
| ① 自己点検・評価、第三者評価  獣医学教育組織は、教育、研究及び技術の質的向上を図らねばならない。全ての教員はこれを十分認識し、不断に自己点検・評価を行い、獣医学教育のさらなる発展のための改善に努めなくてはならない。そのため、教育、研究、実践経験、学会や社会における活動の各事項に留意した点検・評価を行い、個人、獣医学教育組織の各単位における自己点検・評価の体制を整備することが必要である。  各獣医学教育組織は、自己点検・評価と任意の第三者評価を定期的に実施することにより、自己改善を目指した自律的な教育の質保証体制を構築しなければならない。  獣医学教育組織が、我が国における獣医師国家試験の受験資格を授与し、獣医学教育の国際的な教育水準を維持するという社会的責務を担っている点に鑑み、自己点検・評価だけでなく、第三者による客観的な評価を受けることが必要である（注８）。  ② 情報公開  　各獣医学教育組織は、目的に基づいて定めた方針（学位授与方針、教育課程の編成・実施方針、学生の受け入れ方針）、教育内容・方法、卒業認定や学位授与に関する様々な教育情報について、教職員、学生等の学内構成員に対して広く周知するとともに、ウェブサイト、大学案内等を通じて社会一般にも広く明らかにすることが必要である（注９）。  （注８）平成23年３月、文部科学省において「獣医学教育の改善・充実に関する調査協力者会議」が設置され、同会議により今後の獣医学教育改革の方向性が示された。この中で「自己点検・評価の実施や分野別第三者評価の導入等、獣医学教育の質を保証するための評価システムの構築」が提言された。また、獣医学教育に限らず、専門分野における第三者評価は、機関別認証評価に続く教育の質向上の仕組みとして期待されている（中央教育審議会答申 平成17年１月）。  （注９）大学が学生に情報を提供する手段として、また社会に対する透明性を担保する上で、ウェブサイトを通じた情報発信はきわめて重要である。獣医学教育組織は独自のウェブサイトを持つことが望まれる。 |

＜自己点検・評価＞

【評価の視点8-1】自己点検・評価体制を整備していること。

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 自己点検・評価組織名 | 獣医学部自己点検・評価委員会 |
| 委員名（○：委員長） | ○獣医一郎（学部長）、獣医二郎・・・ |
| 組織の開催頻度 | ２年に一度 |
| 組織の取り組み内容 | * 学生による授業評価の分析 * 委員による授業参観の企画 * 教育改善の研修会の開催企画 * ・・・ |
| 自己点検・評価結果の公表 | ＨＰで公表（URL：　　　　　） |

【自己評価8-1-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。 | ３ |
|  | 自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。 | ２ |
|  | 自己点検・評価の体制がない。 | １ |

【自己評価8-1-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 自己点検・評価の結果を公表している。 | ３ |
|  | 自己点検・評価の結果を公表しているが不十分である。 | ２ |
|  | 自己点検・評価の結果を公表していない。 | １ |

【評価の視点8-2】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げる仕組みを整備していること。

【自己評価8-2】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

|  |
| --- |
|  |

＜情報公開＞

【評価の視点8-3】獣医学教育課程のウェブサイトを整備していること。

●基本情報：獣医学教育課程に関するウェブサイトについて記述してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 獣医学教育組織のウェブサイト（URL） | http// |
| ウェブサイト開設母体 | 獣医学部 |
| 更新頻度 | 毎月 |
| ウェブサイトの内容 | * 獣医学教育の目的 * ポリシー * 教育課程の概要 * 入試情報 |

【自己評価8-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|  | 獣医学教育課程のウェブサイトを開設して、獣医学教育課程に関する情報を掲載し、常に更新している。 | ３ |
|  | 獣医学教育課程のウェブサイトを開設しているが、獣医学教育課程に関する情報に不足や不備があり、更新も稀である。 | ２ |
|  | 獣医学教育課程のウェブサイトを開設していない。 | １ |

【評価の視点8-4】学生に教育に関する情報を適切に公表していること。

●基本情報：学生に教育に関する情報を公表する方法について記述してください。

|  |
| --- |
|  |

【評価の視点8-5】教職員に教育に関する情報を適切に公表していること。

●基本情報：教職員に教育に関する情報を公表する方法について記述してください。

|  |
| --- |
|  |

|  |
| --- |
| * 評価の視点8-1～5に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください（『獣医学教育評価ハンドブック』（14頁）の例のとおり、「評価の視点」ごとに自己点検・評価の結果の概要をまとめたうえで、長所、問題点を記述してください）。 |